

第2回

2018. 9. 23大道芸フェスティバル

フォトコンテスト入選作品リスト

最優秀賞

僕も宇宙人

太田 誠二



《講評》

お子様の表情が素晴らしいですね。カメラ目線の大道芸人さんの表情もとても良いです。偶然の一瞬をうまく切り取りました。作品のタイトル通り、宇宙人のヘルメットをかぶり、自分も宇宙人になりきっています。タイトルも非常に良いですね。ヘルメットに映るフェスティバルの風景も計算でしょうか？ お子様の今日という日の楽しい思い出を反映させています。

大道芸人の作品で最も多いのがこのパフォーマーの作品でした。その中でも、お子様の夢や希望を写したとても素晴らしい作品です。

おめでとうございます。

優秀賞



羽ばたく「月潟」 土田 正市

よさこいは大変魅力のある被写体です。鮮やかな衣装やメイク、そして派手なパフォーマンスも眼を引くところがあります。

よさこいの踊る曲に合わせて紙ヒコーキを空に向かって飛ばした瞬間をうまく捉えました。

ローアングルからのフレーミングで躍動感とともに大空に飛び出していく紙ヒコーキののびやかな広がりや写し撮られ、明るい元気いっぱいの踊り子さん達の様子がわかります。

子どもから大人まで、無邪気にこの大道芸フェスティバルに参加し、楽しんでいるその一体感が、この作品の命と言えるでしょう。

明るい未来を切り開き月潟を元気に、そして皆が元気になれるような写真を撮っていただいた作者に感謝いたします。

仲良し

木南 雄平



旧月潟駅のプラットフォームを歩いている角兵衛獅子の子ども達の様子を捉えた写真です。獅子の舞を演じた後で、子ども達の表情には安堵感が漂い、何かしらほのぼのとした雰囲気ややさしい作品になっています。

角兵衛獅子とかぼちゃ電車は一見ミスマッチと思える組み合わせですが、どちらもこの月潟に保存され、月潟にしか存在しないものであり、人々に今なお愛され続けているものです。

昭和初期から中ノ口川沿線の人々を乗せて、時代の変遷や様々な人間ドラマを見てきたであろう電車はその任務を終え、今は静かに動きを止めています。一方、数百年も前から角兵衛獅子の舞は、今もその灯を絶やさず月潟の子ども達によって脈々と受け継がれてきているのです。

時代を交錯したこの二つのコラボレーションを絶妙なタイミングでシャッターを押した一枚といえます。

佳作



曲芸

渡辺 隆

おみごと

今井 政男



パフォーマンス

真水 久衛



見合って、見合って！

滝澤 秋男



スタンバイ

西山 雅之

《総評》

今年の月潟大道芸フェスティバルは好天に恵まれ、いろいろな会場で被写体にカメラを向けて楽しんで撮影されていたことが応募作品から感じ取れました。

大道芸人と観客がそのやり取りを一体となって楽しんでいる姿、旧月潟駅の会場ではかぼちゃ電車の中やイベントを楽しむ子ども達の屈託のない笑顔をつ捉えた作品、よさこいの踊りに参加した人達の衣装や隊形の妙義、舞うことを心から楽しんでいる様子がその表情から伺えます。

また、角兵衛獅子の舞を演じる子ども達の真剣な眼差し、その演技を一瞬たりとも見逃さないと舞台を見つめる観客の様子をうまく捉えた作品など数多く応募されました。

その中でもやはりテーマを明確にし、撮影意図を具現化して自分なりの世界・空間を築き上げてその瞬間をみごとに切り取ることに成功した作品が入賞してきたと思います。

月潟には蒲原平野に於ける成り立ちから育まれた風土や独自の文化がいたるところに点在しています。そして、そこに住む人々の素朴でのびやかな人間性にも注目してカメラを向けて頂きたいと思います。

阿部写真館 代表 フォトグラファー 阿部 柳三